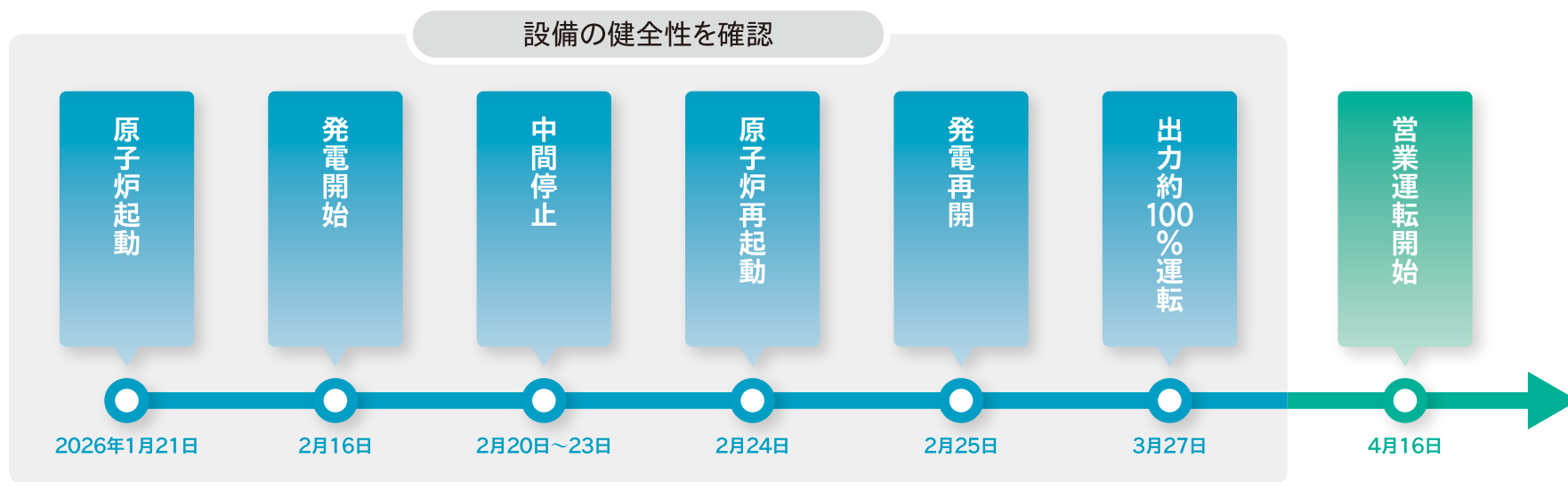


## 柏崎刈羽原子力発電所6号機の営業運転を開始しました

- 6号機は本年1月より原子炉を起動して設備の健全性確認を進めてまいりましたが、4月16日に最終検査を行い、国から「合格証」の交付を受け、営業運転を開始しました。
- 安全に終わりはありません。引き続き発電所で働く全員が心を一つに、現場重視のワンチームの取り組みを拡大し、安全性の向上に取り組むとともに、新たな知見が得られた場合には、適切に活かしてまいります。
- 今後も福島第一原子力発電所事故の反省と教訓を胸に刻み、安全最優先の発電所運営を行ってまいります。

### 6号機の営業運転までの工程について



6号機の運転状況については、トラブルの発生を含め「柏崎刈羽原子力発電所 情報ポータル」で速やかに発信していきます。右記二次元コードからご覧ください。



### 営業運転にあたって

柏崎刈羽原子力発電所6号機は、約14年ぶりに営業運転を開始しました。地域の皆さまの長年にわたるご理解とご協力に心より感謝申し上げます。今後も安全を最優先とした運営をゆるぎない基本方針とし、不断の安全性向上に取り組んでまいります。

また、地域に根差した事業者として、地域の皆さまとの対話を大切にし、新潟県内の「安全・安心な暮らしのための基盤整備」や「地域経済の活性化」に取り組む、皆さまにご信頼いただけるよう努めてまいります。



新潟本社代表 柿澤 幸彦

# 皆さまの、ご質問・ご懸念にお答えします

安全性

## 発電所で万が一事故が発生したら、放射性物質は放出されるの？



私が  
お答えします  
柏崎刈羽原子力発電所長  
いながき たけゆき  
稲垣 武之

### 安全対策

#### ①地震・津波への備え

※東京電力通信第30号に掲載

### 安全対策

#### ②電源と冷却手段の多重化・多様化

※東京電力通信第31号に掲載

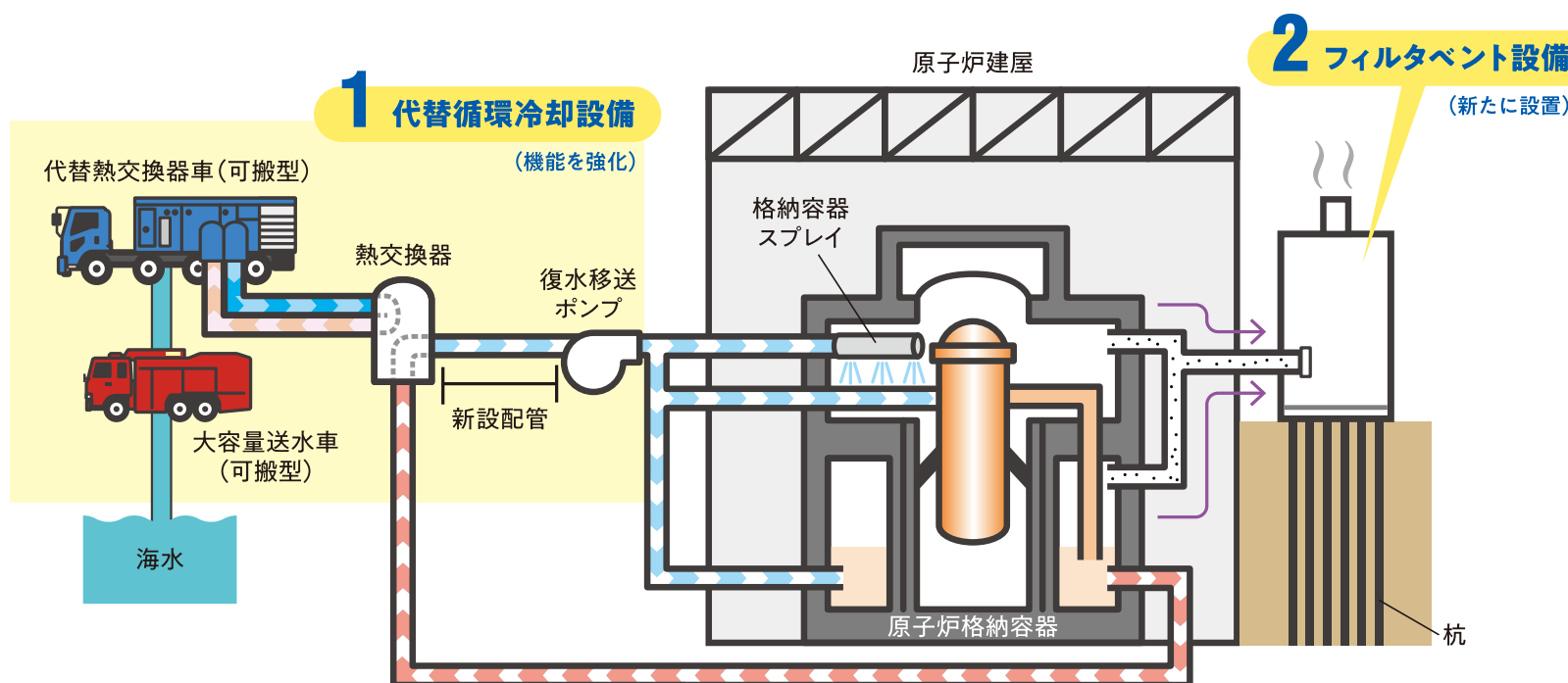
### 安全対策

#### ③放射性物質の放出抑制

## 放射性物質の放出を抑制します

柏崎刈羽原子力発電所では、

- ①想定される最大規模の地震や津波に備えて、多層的な対策を講じています。
- ②発電所内のすべての電源が失われた場合に備えて、原子炉などを冷却し続けるための電源と冷却手段を多重化・多様化しています。
- ③それでもなお、事故が起きた場合に備えて、放射性物質の放出を大幅に抑制するために次の対策を講じています。



### 1 代替循環冷却設備

#### 放射性物質を「約10日間」閉じ込めます

既設の原子炉を冷やす設備が使えない場合でも、代替設備を使い格納容器を冷やし続けることで、温度と圧力を下げて、格納容器の破損を回避します。これにより、放射性物質を約10日間閉じ込めます。

### 2 フィルタベント設備

#### 粒子状の放射性物質を「1000分の1以下」に低減します

格納容器内の気体を大気中に放出せざるを得ない場合でも水と金属フィルタを通すことで、セシウムなどの粒子状の放射性物質を1000分の1以下に低減し、土壌汚染と避難の長期化を防ぎます。また、放射性よう素も低減します。

※イラストはイメージです。

柏崎刈羽原子力発電所の安全性について、県民の皆さまにわかりやすく、丁寧にお伝えしていきます。

東京電力通信について、皆さまのご意見をお聴かせください。右の二次元コードから受け付けしています。お寄せいただいたご意見は今後の広報活動に活かしてまいります。



<https://tepcu-se.azurewebsites.net/s/kaizensochi>

TEPCO

お問い合わせ

東京電力ホールディングス 新潟本社  
〒950-0965 新潟市中央区新光町11番地7 新潟光ビル

025-283-7461  
9:00~17:00(土日・祝日・年末年始除く)